

衛生害虫等防駆除業務

1. 対象施設

箕面市立病院

2. 一般事項

1) 本仕様書その他、みのおライフプラザ複合施設管理業務委託基本仕様書（以下「基本仕様書」という。）を適用する。

2) 提出書類（原則としてA4版とする）

①施行中 業務報告書（作業完了のつど）

2部

②その他発注者又は施設管理者の指示するもの

3. 業務内容

1) 衛生害虫防駆除（詳細は「5. 業務要領」のとおり）

①衛生管理点検

施設内におけるゴキブリ、蚊・チョウバエ等害虫及びネズミの生息兆候の有無を定期的に調査し、駆除作業の基礎とする。

②駆除

衛生管理点検等の結果に基づき、施設内におけるゴキブリ、蚊・チョウバエ等害虫及びネズミの駆除を行う。なお、ゴキブリについては、生息の有無によらず発生の可能性のある場所について、定期的に防除作業を行う。

2) 非常要請調査

施設管理者の要請に基づき随時業務担当者を派遣して、院内（敷地内）における衛生害虫発生の有無等を調査する。なお、衛生害虫の発生が確認された場合は1)項に示すとおり直ちに駆除を行う。

4. 特記事項

1) 基本仕様書6-1業務計画書、6-2作業計画書に基づいて施行すること。

2) 衛生害虫防駆除を行う場合には、施設管理者及び統括責任者から害虫等の生息兆候の有無を聴取し、防駆除作業の参考とすること。

3) 異常を発見した場合は、同様の異常発生が予測される箇所の点検を行うこと。

4) 作業が終了したときは、そのつど施工日程、施工内容、考察等をまとめた報告書を提出すること。

4) 業務に使用する薬剤等については、安全性について十分検討の上、製品安全データシートを提出し、施設管理者の承諾を得たものを使用すること。また、これを変更し、追加する場合も同様とする。

5) 業務に使用する器材・薬剤等はすべて受注者の負担とする。

5. 業務要領

A. ゴキブリ

1) 衛生管理

①生息調査

ゴキブリの有無を定期的に調査し、駆除の基礎資料とする。

2) 駆除

①発生源対策

発生源の調査及び発生の原因に関する調査を行い、これに適応した駆除を行う。なお、駆除方法は、残留噴霧法による。(対象施工箇所：湯沸室、ごみ置場、更衣室、浴室等)

②発生個所の駆除

上記①以外にゴキブリが発生している場所における駆除を行う。なお、駆除方法は、残留噴霧法、トラップ法による。(対象施工箇所：機械室、備品倉庫、配電盤等)

③殺虫剤の散布が不可能な場所の駆除

駆除方法は、毒餌剤(ヒドラメチルノン含有毒餌)、トラップ法による。

④使用薬剤

フェニトロチオン低臭性乳剤、フェニトロチオンマイクロカプセル剤、フェノトリン水性乳剤、ヒドラメチルノン製剤(ベイト剤)、N-アルキルアミド系化合物(ベイト剤)

3) 施工回数

別表「年間作業実施表」のとおり

B. 蚊・チョウバエ

1) 衛生管理

①生息調査

発生源となっている場所(排水口、排水槽、ピット等)を定期的に調査し、発生の有無を把握する。

2) 駆除

①環境的駆除

衛生管理点検等の結果に基づき、蚊の発生源となっている場所の施設改善等の助言を行う。

②化学的駆除

環境的駆除が実施不可能な場合で、生息調査の結果により生息を確認した場合は、薬剤による駆除を行う。なお、駆除の方法としては、フェンチオン乳剤、防疫用殺虫剤ジクロルボス乳剤(5%)を発生源に散布する。また、必要に応じジクロルボス樹脂蒸散剤を設置する。

3) 施工回数

別表「年間作業実施表」のとおり

C. ネズミ

1) 衛生管理

①環境調査

建造物の内部及び外部の環境状況、食餌環境、施設内への侵入経路等を調査し、駆除の基礎資料とする。

②生息調査

生息の有無、種類、行動範囲、営巣場所を把握するため、脱糞及び足跡の有無、聴聞、視察調査を行う。

2) 駆除

①環境的駆除

環境調査の結果に基づき、防鼠工作、食物、残飯等の管理について助言を行う。

②化学的・物理的駆除

a. 毒餌による駆除

ネズミの嗜好物を調査し、最も喫食の多い餌を毒餌（クマリン系殺鼠剤を使用）として生息場所に配置する。

b. 散粉法による駆除

ネズミの通過する場所にクマリン系殺鼠剤を散粉する。

c. 粘着トラップによる駆除

トラップを徘徊する場所に配置する。

d. その他の駆除

忌避剤（シクロヘキシミド剤等）を状況に応じて使用する。

3) 施工回数

別表「年間作業実施表」のとおり

D. イエダニ

発生した場合のみ駆除を行う。なお、駆除の方法としては、下記の方法を状況に応じて選択する。

1) ピレスロイド系ダニ油剤を散布する。

2) フェノトリン水性乳剤をULV機により超微粒子空間噴霧する。

E. タカラダニ

発生した場合のみ駆除を行う。なお、駆除の方法としては、下記の方法を発生場所に応じて選択する。

1) 屋外は防疫用殺虫剤ジクロルボス乳剤(5%)を発生箇所に散布する。

2) 屋内は状況に応じてフェノトリン水性乳剤を発生箇所に散布する。

F. その他

上記に掲げる他の害虫が院内で発生した場合は、そのつど駆除を行うものとし、その方法、使用する薬剤等については、あらかじめ施設管理者と協議すること。

【別表】

年間作業実施表

対 象 \ 月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ゴキブリ	衛生管理※	院内全域	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	駆 除	院内全域			○				○					
		栄養部 食堂 喫茶	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
チヨウバエ	衛生管理※	院内全域	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	駆 除	地下ピット 排水槽	毎月の衛生管理により生息が認められれば、速やかに駆除作業を実施する。											
ネズミ	衛生管理※	院内全域	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	駆 除	院内全域	毎月の衛生管理により生息が認められれば、速やかに駆除作業を実施する。											
非 常 要 請 調 査			随 時											

※衛生管理について

毎月1回定期的に訪問し、施設内におけるネズミ・害虫の生息徴候の有無を調査して駆除作業の基礎とすること。